

# Greener's House Brand Book





僕たちの設計はいつも鉛筆1本からはじまります。

暮らしを想像し、線を引き、風の流れを描く。

そこにグリーンと光が加わったとき、

「わたしの居場所」が立ち上がります。

窓辺に腰かけて、ただ外を眺めるだけの時間。

何もしないそのひとときが、

心を整えてくれる。

Greener's Houseがつくるのは、

そんな時間が“自然と生まれる”空間です。

好きなものを、ちょっとだけわがままに。

お気に入りの椅子に座って、  
ふと目に入るグリーンに癒されたり、  
お気に入りの照明を灯して、  
夜の時間をじっくり楽しんでみたり。

Greener's Houseの「G&M (Green & Mid-century)」は、  
そんな“好き”の気持ちを、  
ほんの少しだけ空間にわがままに映したスタイル。

でも、それが心地よく感じられるのは、  
ちゃんと風が通る設計や、断熱・気密の“下地”があるから。

空間って、ちょっとの工夫で、ぐっと変わる。

暮らしはもっと、自分らしくていい。

Greener's Houseは、そんな“ちょうどいい遊び心”を提案しています。



スケッチは、想いを共有するための“共通言語”です。

打ち合わせのたびに、

その場で「こんなイメージかな」と描きながら話す。

間取り図だけでは見えてこない、

「空気の流れ」や「奥行き」「視線の抜け」が、  
スケッチになると一気に立ち上がってくる。

スケッチのいいところは、

訂正も、妄想も、気軽にできること。

まだ何も決まってない段階でも、

「こうだったら素敵かも」という感覚を  
お互いの目で見ても、言葉にして、広げていける。

だからブレない。

だから楽しい。

それが、Greener's Houseの設計の進め方です。



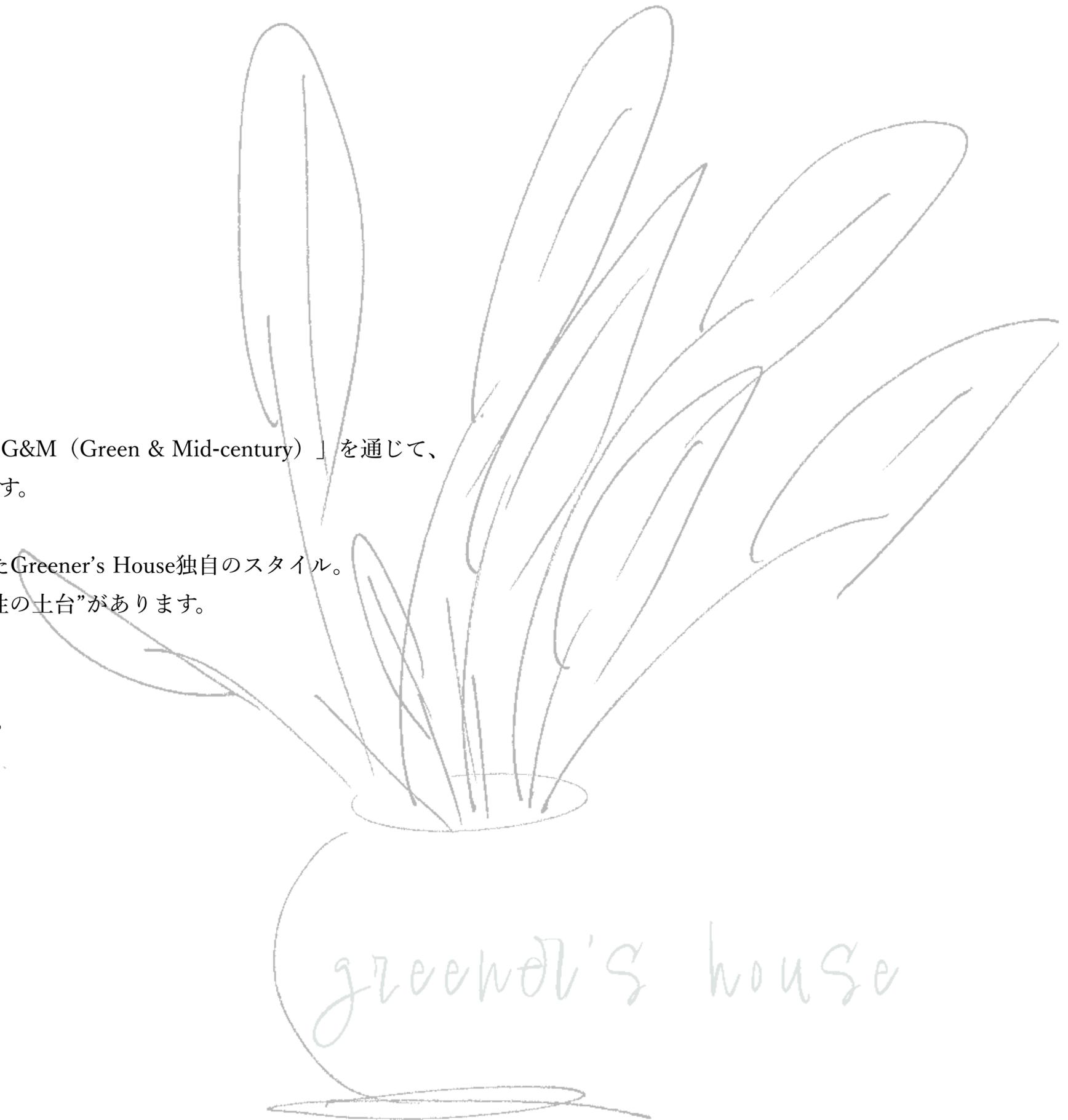
僕たちにできること。

グリーンとミッドセンチュリーデザインを掛け合わせた独自の空間設計であるG&M（Green & Mid-century）」を通じて、日々の喧騒から距離を置き、心と身体が“ふっと緩む”時間と空間を届けています。

G&Mって、植物の持つ揺らぎと、ミッドセンチュリーの美しい機能美を重ねたGreener's House独自のスタイル。その根底には、断熱・気密・換気などの建築設計思想によって生まれる“快適性の土台”があります。

僕たちは、性能だけを追い求めるのではなく、その上に“好きなものに囲まれて生きる、ほんの少しの贅沢”を設計しています。

それが、Greener's Houseの考える「遊び」ある暮らしなんです。



## Greener's House の設計に対する考え方

「風と光と、好きなものがきちんと居場所を持てるように。」

「図面」ではなく、「感覚」から始める

僕たちの設計は、まずスケッチから始まります。

空間を数字で割り切る前に、  
そこに座る人の視線や、  
窓から入る風、  
グリーンが映える位置を、  
ひとつずつ確かめながら描いていきます。

図面はあとで整えていくもの。  
最初に必要なのは、“好き”と“心地よさ”の感覚です。



## 和室を壊して、風を通す話。

この間取り、最初に見たときに思ったんです。

「和室が、死に場所になってるな」って。

玄関のすぐ横にあるのに、使い道がない。

土間にする案も出たけど、それだと生活の流れが悪いし、ただでさえ狭い家なのに、空間の無駄が増える。

じゃあどうするか。

思い切って、和室を壊してキッチンを移動させることにしました。

本当は水回りはあまりいじりたくないけど、今回は「動線」と「風の通り」を最優先に。

この家、とにかく風が流れない。

全部の空間が、壁で分断されてる。

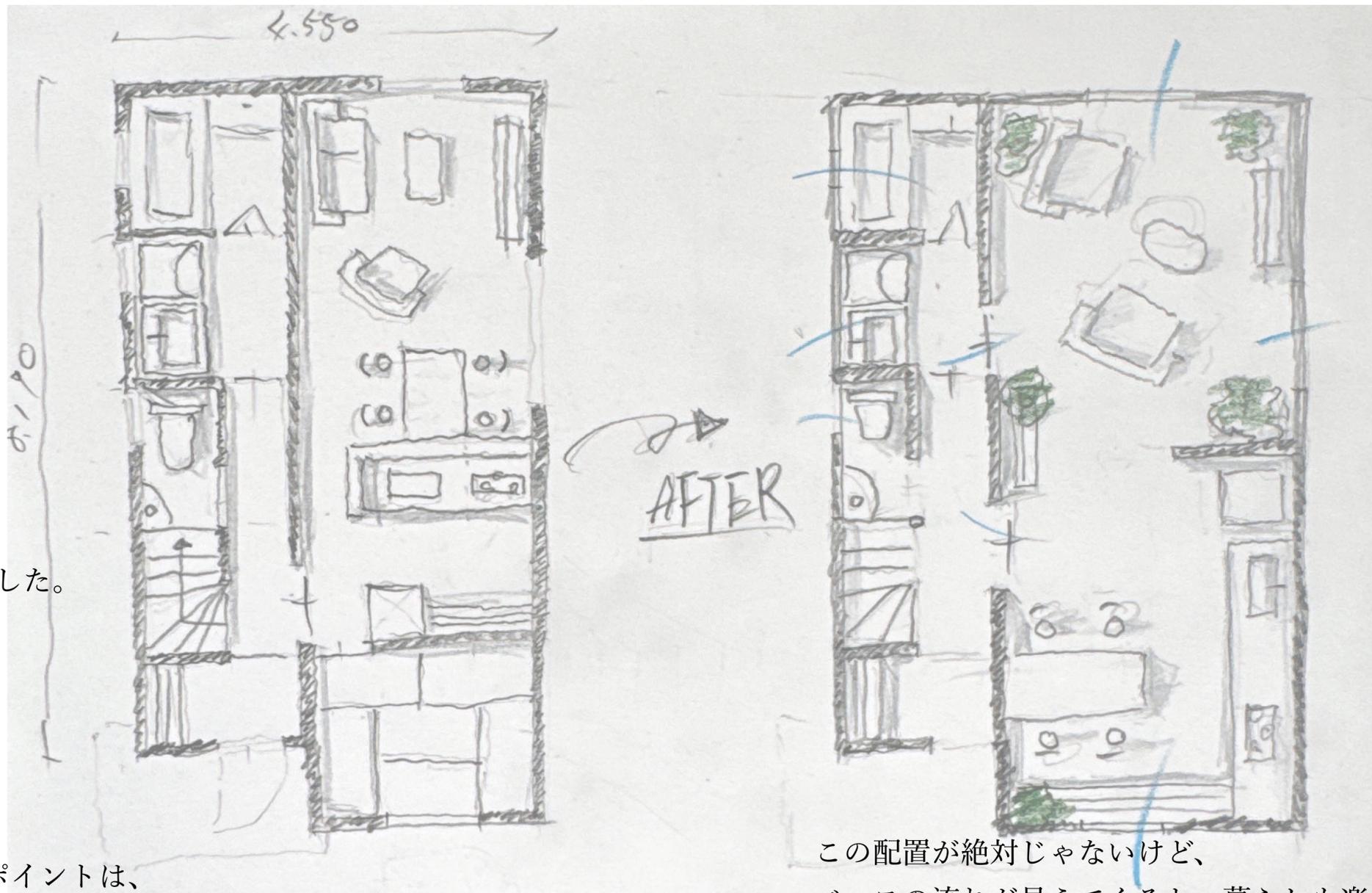
でも、ただ壁を全部とっばらうのは違う

だから考えたのは、

“いい感じに空間を区切る”壁。

人は意外と、壁があった方が落ち着く。

でも、閉じすぎると風も抜けないし、視線も詰まる。



ポイントは、  
家具やグリーンを置く“居場所”をちゃんとつくること。  
家具は壁から少しだけ浮かせて置く。

それだけで、余白が生まれて空間が呼吸しはじめる。

洗面所へは、2方向からアクセスできるように。

人の動きも、風の流れも、スムーズに。

分断されていても、風だけは通す。

この配置が絶対じゃないけど、  
ベースの流れが見えてくると、暮らしも楽になる。  
そんな風に思っています。

このスケッチで伝えたいこと

- 分断されてた空間を、風でつなぎなおす
- 壁は“消す”じゃなく“整える”
- 家具配置は“ピタッと”より“ちょいズレ”がいい
- 暮らしの流れと風の流れは、同じもの

グリーンは、空間の中の静かな“ゆらぎ”。

僕にとって、植物は飾りじゃありません。

部屋の角に立つサボテン。  
窓辺に吊るしたポトス。  
ベンチの横にある鉢植えのオリーブ。

どれも、ただそこにあるだけで、  
空気が変わる。  
音がやわらぐ。  
光がまるくなる。

そして何より、人の心が、ふっとほどける。

グリーンは、そんな「空気と心のデザイン」を担ってくれる存在。

Greener's Houseの空間は、  
植物が“居場所”を持てるように設計されています。

風の流れ、光の入り方、水やりのしやすさ——  
植物といっしょに暮らすことが、  
あたりまえのように成立する空間。

それが、僕たちが届けたい“緑のある暮らし”です。





家具は、ただのモノでじゃない。

ダイニングの椅子に座って、  
コーヒーを飲みながら窓のグリーンを眺める朝。  
ソファにごろんと寝転んで、  
観葉植物の影がゆれているのを見る午後。

そんな居場所の記憶”がその空間に“暮らしをつくっていく。

Greener's Houseでは、  
家具も空間と同じ目線で設計に組み込みます。

置く場所、引く距離、光の当たり方、風の抜け方。  
椅子ひとつ、テーブルひとつの存在が、  
空間のバランスを決めていくから。

それは、完璧にレイアウトされた部屋よりも、  
少し不揃いで、でも“好き”がちゃんとある空間。

僕たちは、「家具で完成する余白」を大切にしています。

家具は、図面の上じゃなくて、  
スケッチの中で、暮らしの一部として描きます。

それが、「置く」じゃなく「居る」ための設計だと思うから。

## 「100点より、“愛着のある余白”を」

完璧な間取りよりも、  
少しの不完全さがあっても、愛せる空間をつくりたい。

それは、植物の葉が育つことで完成していくような、  
暮らしの中で“育っていく設計”です。

Greener's Houseは、  
暮らし手の“好き”を育てる余白を、  
あらかじめ用意しておきたいと思っています。



きっちり整えた庭じゃなくていい。

ただ石を並べただけの小道に、  
風に揺れるグラス類を少し。  
気づけば根付いていたセダムや、  
いつの間にか伸びたハーブたちが、  
その庭を“誰かの居場所”に変えてくれる。

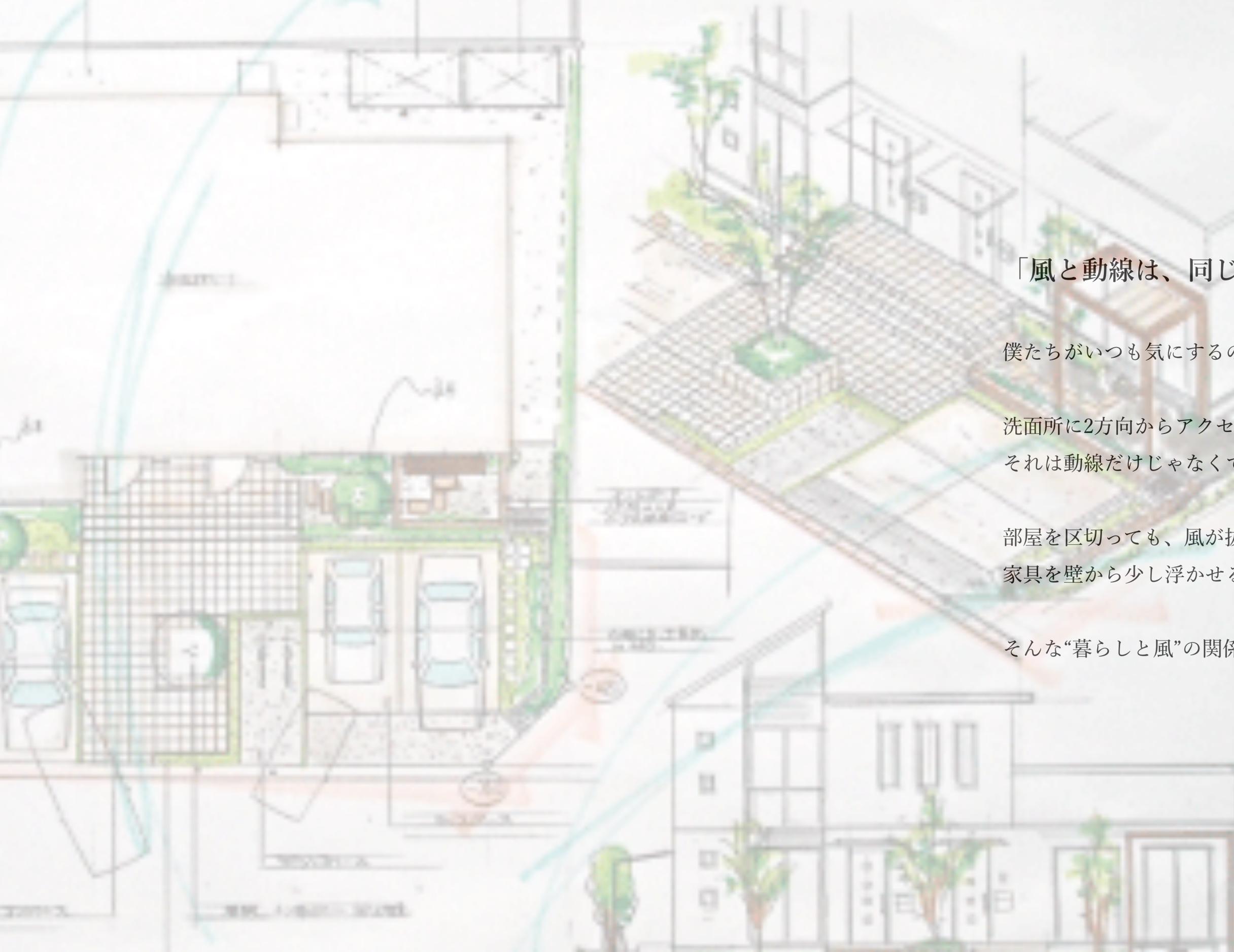
洗濯物を干すついでに、  
鉢の水やりをして、  
子どもが拾った小石が並んでいて——

それだけで十分。

庭は、暮らしの中で“育つ”ものだと思うんです。

Greener's Houseがつくる庭は、  
管理のための場所ではなく、  
心がほどける“余白”としての庭です。





## 「風と動線は、同じ線で描ける」

僕たちがいつも気にするのは、風の流れと、人の流れ。

洗面所に2方向からアクセスできたら、  
それは動線だけじゃなくて、風の通り道にもなる。

部屋を区切っても、風が抜けるように考える。  
家具を壁から少し浮かせるだけで、空間が呼吸する。

そんな“暮らしと風”の関係までが、設計の一部だと考えています。

## 「性能があつてこそ、感性がいきる」

高断熱・高气密、換気設計、日射取得と遮蔽。

耐震補強、サーモスタッドでの温熱調査。

HEAT20 G2～G3相当の断熱性能。

自然通風と機械換気を組み合わせた空気設計。

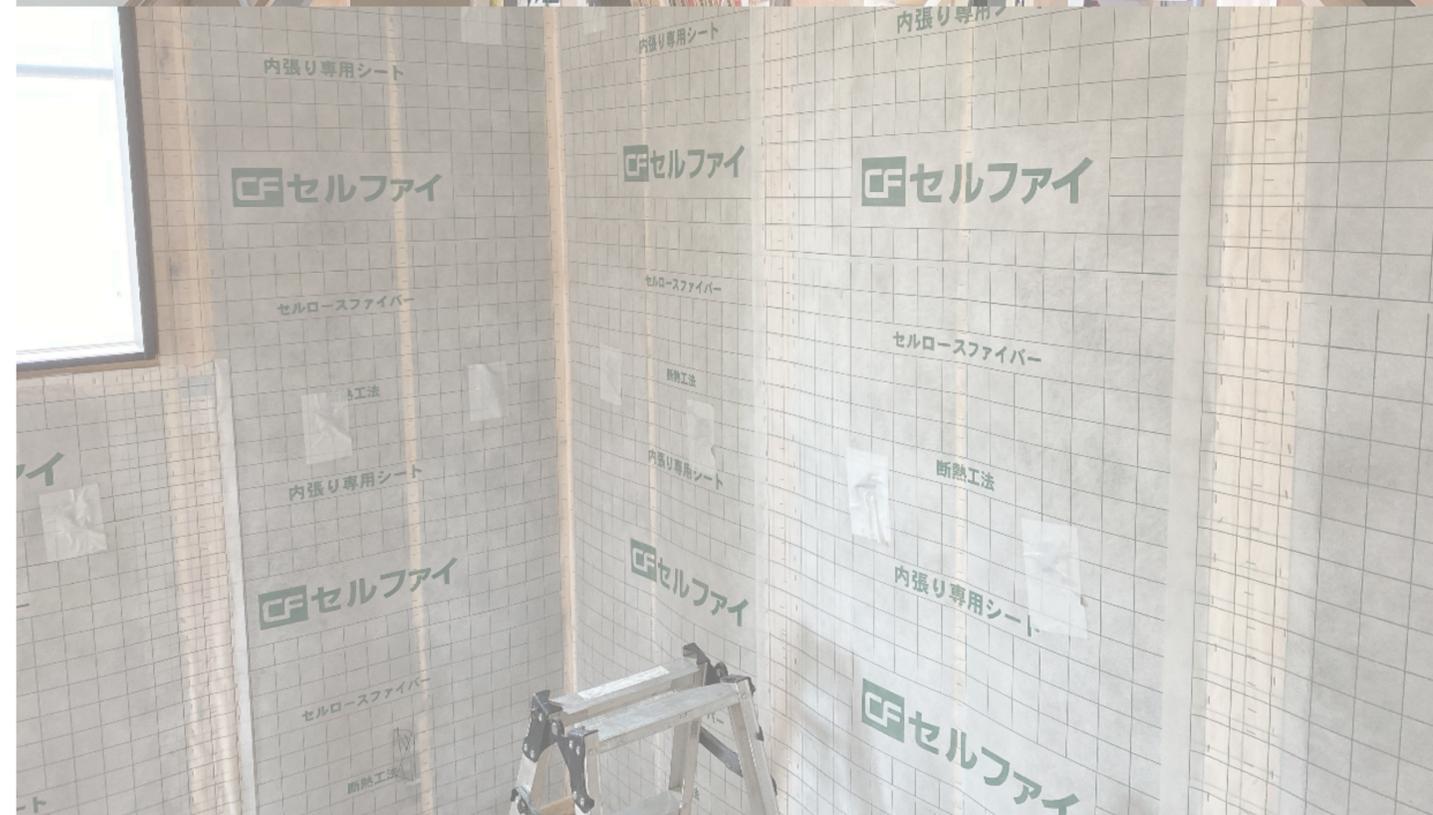
耐震等級1～2相当の補強と構造診断。

Greener's Houseの設計は、高气密、高断熱、換気設計を重視した性能設計を土台にしています。

その上で大事にしているのは「その人らしい感性」

性能だけではつukれない“居場所の気配”を、  
スケッチと対話を重ねながら設計していきます。

Greener's Houseが大切にしているのは、  
空気が心地よく流れ、光がやわらかく差し込む空間です。



## 本物の素材と、暮らしの余白の話

素材は、嘘をつきません。

グリーン、鉄、木、石、セメント、布、ガラス、陶器。

それぞれの表情や手ざわりが、  
暮らしに遊びやゆとりを与えてくれる。

だから、Greener's Houseでは、  
意匠や流行ではなく、「本物の素材」にこだわりたいのです。

無垢の木の床がきしむ音も、  
鉄が経年でまとう鈍さも、  
陶器のゆがみも、  
暮らしを“完成”ではなく“進行形”にしてくれる。

# Greener's Houseの仕事のすすめかた

## 1 | まずは、お話を聞かせてください。

「どんな暮らしが好きですか？」

「最近、どんな場所に癒されましたか？」

そんな問いから、暮らしの輪郭を少しずつ描きはじめます。

## 2 | まだ物件が決まっていない方へ

リノベに向けた物件を、一緒に探すこともできます。

“建築目線”ではなく“暮らし目線”で、素材としての家を見極めます。

## 3 | 現地調査（インスペクションと耐震診断）

建物の状態を、ゴウ自身がプロとして確認します。

「安心して暮らせる場所かどうか」、

目に見えないところまで丁寧に見させてもらいます。

## 4 | スケッチで暮らしを描きます

図面ではなく、スケッチでやり取りするのがGreener's Houseの特徴。

話しながら、線を引きながら、

暮らしの輪郭が立ち上がっていくのを一緒に見ていきましょう。

※借り契約後のスケッチコミュニケーションとなります

## 5 | 概算と優先順位のすり合わせ

やりたいことと、できること。

好きなことと、必要なこと。

そのバランスをスケッチと一緒に整理していきます。

※この段階で本契約を結びます。

## 6 | 性能と感性の設計

断熱や換気、構造の補強——暮らしを支える基本性能はしっかりと。

でもその上に、風と光とグリーンが通う「居場所の設計」を重ねます。

## 7 | 施工。現場でも、対話しながら

図面のまま進めるだけではありません。

現場で「やっぱりこうした方が良さそうだね」があれば、柔軟に対応。

その場でスケッチして、微調整して、空間を育てていきます。

## 8 | 暮らしのスタートと、これから

完成して終わりじゃなく、始まりです。

植物の育て方、家具の配置替え。

“わたしの居場所”を育てる暮らしに、ずっと寄り添います。

## Q&A | よくあるご質問と、Greener's Houseの答え

Q1. リノベーションって、やっぱり高いですか？

A. ご希望とご予算を聞きながら、“ちょうどいい暮らし”を一緒に探します。

Greener's Houseでは、スケッチの段階で概算をお伝えし、優先順位を整理して無理なく進められるようにしています。DIYや段階施工も柔軟にご提案します。

Q2. スケッチだけで大丈夫なんですか？

A. 大丈夫です。むしろスケッチだからこそ“感覚”が伝わりやすいと好評です。ご安心ください。もちろんその後に正確な図面の作成に移ります。

その場で鉛筆を動かしながら「こうしたらどうなる？」を視覚化できるから、図面よりもわかりやすい変更があるたびに簡単なスケッチで確認するので、安心して進められます。

Q3. 植物の手入れができるか心配です…。

A. 大丈夫。あなたの暮らしに合った植物を一緒に選びます。

毎日しっかり世話する必要はありません。風通しや光、置き場所も含めて、植物が“ちゃんと居場所を持てる空間”をご提案します。

Q4. 気密や断熱はしっかりしてるんですか？

A. 僕自身が「耐震診断士」「インスペクション技術者」として現場を診断します。

HEAT20 G2～G3相当の断熱性能、耐震等級1～2相当を目安にしつつ、予算や家の状況に応じて“バランスよく”設計します。

基本的に壁にはグラスウールで施工します。

この辺りのことを詳しく記事として紹介してますのでぜひご覧ください。

Q5. 家具やインテリアも相談できますか？

A. はい、むしろ“家具まで含めて設計”しています。

椅子やグリーンの置き場所、視線の流れまでスケッチで考えます。お気に入りの椅子がある方は、そこから設計を始めることもよくあります。

Q6. 土間や庭に憧れはあるけど、狭い家でもできますか？

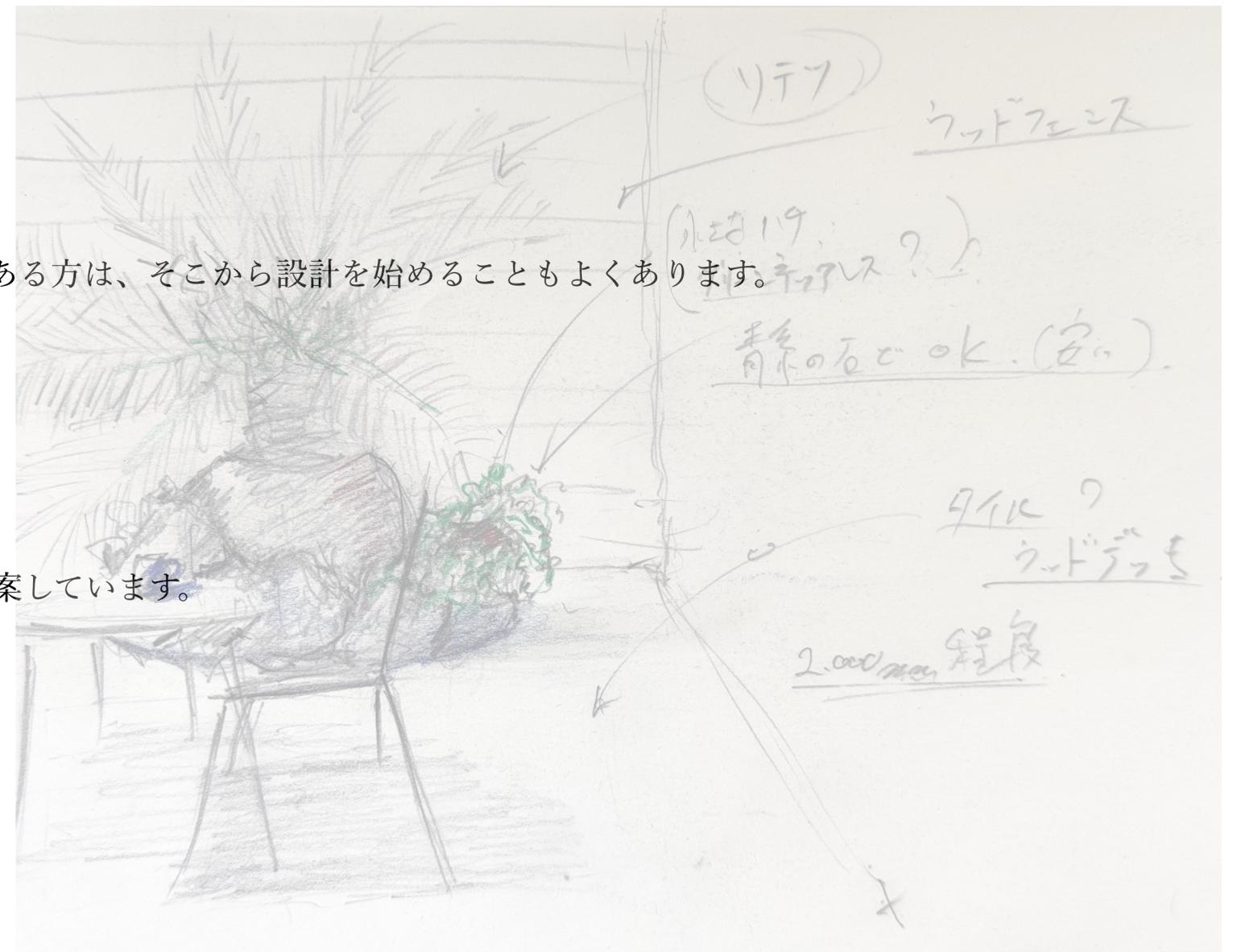
A. もちろんです。むしろ狭い家ほど“余白”の作り方が大切です。

完全に抜けた空間ではなく、グリーンや光の透け感や光の抜けで「広く感じる」工夫をご提案しています。

Q7 施行はどうすればいいですか？

A. 基本的にGreener's Houseは自社施工で行なっております。

設計デザインだけのご依頼も受けておりますので、お気軽にお声がけください。



## Greener's House の価格について

「正直に、柔軟に。一緒にちょうどいいを探します。」

私たちは、パッケージではなく“対話”で価格を決めています。

Greener's Houseでは、あらかじめ決まったプランや定額制は設けていません。

なぜなら、住まい手の“好き”や“暮らし方”に合わせて、毎回設計が違うから。

そのかわり、初回のヒアリングやスケッチ提案の段階で、

「この内容だと、だいたいこれくらいです」という価格の目安はお伝えしています。

内容 概算価格（税込）

断熱・気密改修（戸建 80㎡）

約200～300万円

フルリノベーション（木造戸建 80㎡）

約1200～1800万円

部分改修（LDK+洗面まわりなど）

約500～900万円

中古物件インスペクション（耐震診断含む）

10万円～（報告書込み）

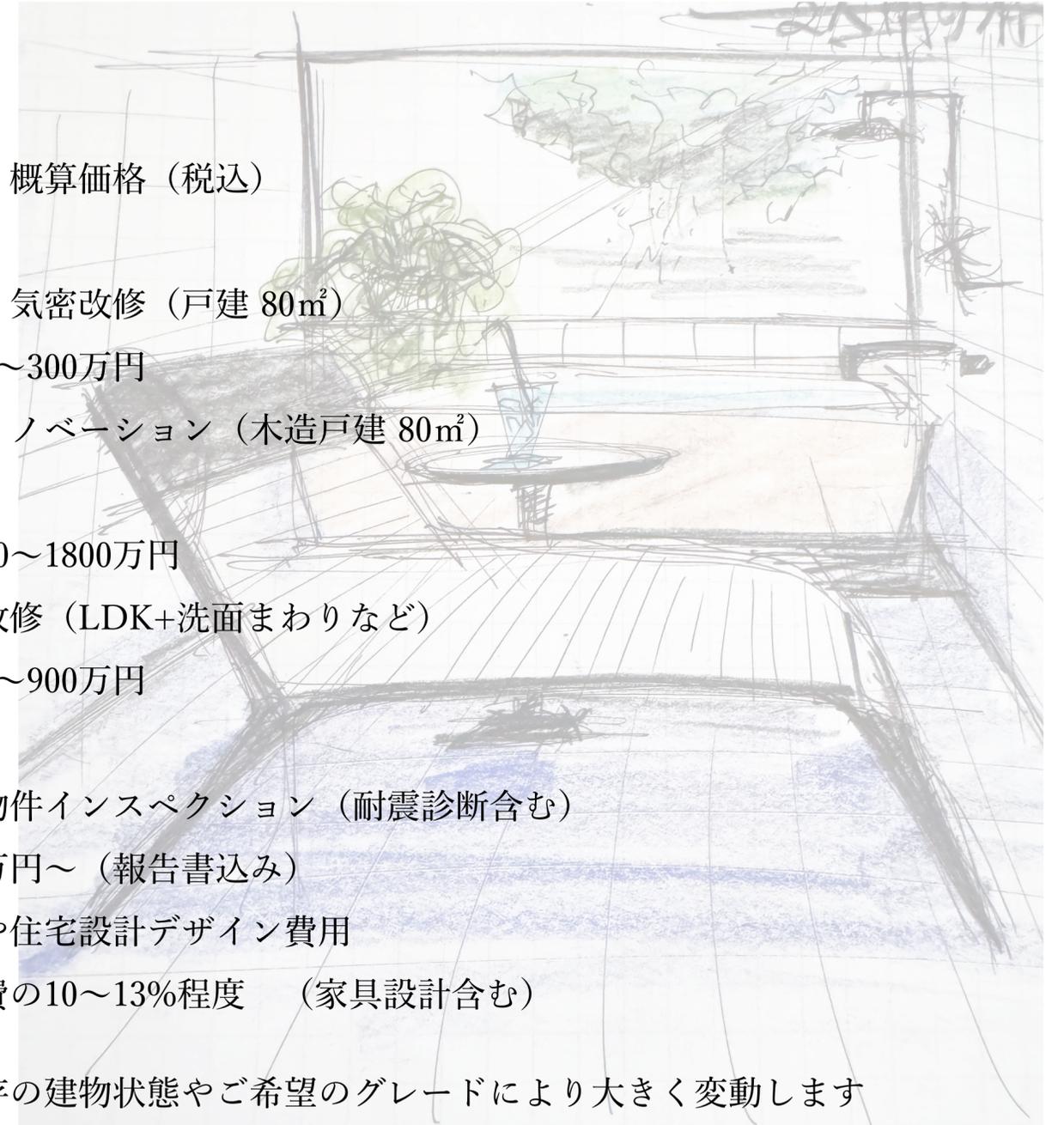
店舗や住宅設計デザイン費用

総工費の10～13%程度（家具設計含む）

※既存の建物状態やご希望のグレードにより大きく変動します

※価格調整やDIYとの組み合わせ提案も可能です

※グリーンについてのアドバイスいつでも無料です。



## **Greener's House Works**













お気に入りのソファと、いつものグリーン。

小さな光、やわらかくうねる布、  
手に触れる植物の質感。

子どものころから、なぜか落ち着くのは、  
ミッドセンチュリーの家具と、  
グリーンのある風景だった。

ラグに寝転んで、ソファを見上げる。  
それが僕にとっての「特等席」だった。

忙しさのなかで見失っていたけれど、  
いま、またそこへ戻ろうとしている。

Greener's Houseは、そんな“原風景”からはじまりました。

## Greener's House ディレクター・デザイナー・設計士

「風とグリーンのある暮らしが、僕の原点です。」

小さい頃、家の中でいちばん好きだったのは、  
母が大切にしていたミッドセンチュリーのソファとラグの空間。  
その横にいつもあった花瓶とグリーン。  
そこに風が通るだけで、なんだか落ち着いて、安心できた。

あの感覚が、今のGreener's Houseの原点です。

「好きな空間は、自分を思い出させてくれる。」

いつのまにか僕も、図面を描く人になっていました。  
店舗や住宅の設計、海外での空間づくりにも関わってきました。  
でも、仕事に追われる日々で、  
“何のために空間をつくるのか”を忘れかけた時期もありました。

そんな僕を連れ戻してくれたのも、  
風に揺れるグリーンや、陽の光が差す窓辺。  
感性の居場所がある暮らしでした。

「診断も、スケッチも、全部自分でやりたい。」

Greener's Houseでは、  
設計デザインだけでなく、現場管理、施工管理、  
耐震診断・インスペクションとしての建物調査もすべて自社で行います。

誰かに任せるんじゃなく、  
“現場の空気と住まい手の言葉を自分で受け取りたい。  
だから、スケッチも、その場で鉛筆で描きます。  
感性をそのまま、形にしたいから。

「一緒に、“あなたの好き”を空間に描きませんか？」

僕たちは、大きな会社でも、作品主義の設計事務所でもありません。

でも、“あなたらしい暮らし”を  
感性と性能のバランスで支えることは、誰よりも考えています。

図面の前に、まずスケッチから。  
性能の前に、まず好きから。

そんな家づくりに、ピンときたら、  
ぜひ、一緒にお話ししましょう。

Greener's House

Greener's House 代表 青川 剛気



### 保有資格と経歴

- 2級建築士
- 耐震診断士
- 既存住宅状況調査技術者（インスペクション）
- 海外（台湾）での店舗設計・空間構成、イベント企画に関わる グリーンの輸入
- プランツショップ運営サポートなど多くの店舗設計に関わる／植物と空間の専門家
- 木の家、リノベーション、ミッドセンチュリーテイストを得意とする

会社名：株式会社HAGANE

ホームページ：<https://www.hagane-arch.co.jp>

メール：[goki.aokawa@hagane-arch.co.jp](mailto:goki.aokawa@hagane-arch.co.jp)

代表取締役社長：青川 剛気

本社：京都府八幡市八幡長谷60-1

TEL：075-951-2628

Design企画室：京都府京都市西京区

WOOD工場：奈良県高市郡高取町清水谷25-1

創立：2013年設立

資本金：5,000,000円

従業員数：4人（2025年3月末現在）

事業内容：空間デザイン、建築設計施工、その他建設に関するマネジメント

事業、これらに関するマネージメント・コンサルティング業務 住宅・マンションリノベーション

登録番号：(般-30)第42014号 25B第02126号

建築士事務所

# Greener's House